

Nine Stories
ナイン・ストーリーズ

サリンジャー至高の短編集をあなたに――

この本は『ライ麦畑でつかまえて』の作者J.D. サリンジャーが書いた短編集だ。多くの短編の中からサリンジャー自身が選んだ短編が9編収録されている。

それぞれの短編で描かれているのは風変わりな人物たちの飾ることのない会話や、日常の一場面だ。そこには感動的なラストや、あっと驚くどんでん返しがあるわけではない。淡々と静かに物語は進み、気がつくと終わっている。「いったい何が言いたんだ？」こう感じて読むのをやめてしまう人もいるかもしれない。だが少し待ってほしい。ありのままの彼らの姿を描いた文章は、読み終わった時にどこか私たちの心に残るはずだ。これは、登場人物の息遣いまで聞こえてきそうな文章から、彼らの弱さや、抱えている不満が痛いほどよく伝わってくるからだろう。そういった弱さや不満は小説のために「作られた」ものではない。誰もが共感できるような当たり前の人間のもろさが絶妙に描かれている。

たとえば『笑い男』で描かれる、自分の精神的な支えを失ったことに対する不安。『エズミに捧ぐ――愛と汚辱のうちに』で描かれる、純粋な少女と達観した大人の姿。これらはどこか自分にあてはまるような部分があるはずだ。『対エスキモー戦争の前夜』で感じるようなイライラは、誰もが一度は感じたことがあるはずだし、『愛らしき口もと 目は緑』で描かれる電話での会話は、登場人物の心情がはっきりわかって、共感することができるはずだ。

この短編集は多くを主張することはないだろう。ただ登場人物たちの日常や会話が描かれているだけだ。しかし、そこには私たちが考えさせられることがたくさん含まれている。この短編集は、本だけで完結するものではなく、本と読み手があって初めて完成するのである。



筆者：J.D.サリンジャー 訳：野崎孝
 出版年：1974年発行
 出版社：新潮社
 定価：473円（税込み）

短編一覧

- バナナフィッシュに
うってつけの日
A Perfect Day for
Bananafish


- コネティカットの
ひらひらした空
Uncle Wiggly in
Connecticut


- 対エスキモー戦争
の前夜
Just Before the War
with the Eskimos


- 笑い男
The Laughing Man


- ティンギーで
Down at the Dingley


- エズミに捧ぐ――
愛と汚辱のうちに
For Emme with
Love and Squalor


- ド・ドーミエリス
の青の時代
De Daumier-Smith's
Blue Period


- 愛らしき口もと
目は緑
Pretty Mouth
and Green My Eyes


- テディ
Teddy



はみだし
すてーじ

社会からはみださないまっとうな大人になりたいです。
 ⇒型破りな人間も必要だと思いますよ。

(工・2 たいら)
 (型破りすぎるのも問題ですが；編)